

## 長時間血液透析における実血液流量 ( $RQ_B$ ) の経時的変化

宮尾 眞輝、吉田 智史、川畑 勝、陳 れみ、陣内 彦博

東京ネクスト内科・透析クリニック

### 【目的】

日本透析医学会から提示された「維持血液透析ガイドライン：血液透析処方」における『長時間血液透析』に該当する患者に対して実血液流量（以下、 $RQ_B$ ）測定を行い、その推移を検討した。

### 【対象・方法】

- 対象は当院外来維持透析患者 7 名（男性 3 名、女性 4 名）
- $RQ_B$ 測定にはニプロ社製血液モニタ HD02 を使用し、事前に検量・補正した値を  $RQ_B$  とした。
- 検討項目は①設定血液流量（以下、 $SQ_B$ ）と  $RQ_B$ との乖離、②治療開始時からの  $RQ_B$  変化とした。

### 【結果・考察】

- 症例により傾きは異なるが、 $SQ_B$ と  $RQ_B$ の乖離は治療開始時より徐々に大きくなる傾向であり、脱血状態が改善することはなかった。
- 治療終盤の乖離をできるだけ小さくするためにも、良好な脱血状態で治療を開始することが重要と思われた。
- 各パラメータ（総除水量、透析時間、除水速度、 $SQ_B$ 、収縮期血圧）と脱血状態の関連性は確認できなかったため、上腕動脈流量や BV 計データ等を再検討する必要性がある。

### 【結語】

体内環境が変化しづらい長時間血液透析においても、適正な透析量を算出・評価するためには経時的な  $RQ_B$ の測定は必要と思われる。